

医療最前線

検査の基準などについて②



臨床検査技師 高橋桃子

今回は、前回簡単に説明した「偽陽性・偽陰性」について、詳しく説明していきます。

陽性になったり(偽陽性)するものが、偽陰性や偽陽性(偽陰性)に感染してからウイルスが増殖するまでには、検査にかかる時間がかなり、検査試薬により異なります。検査は症状が出てから6時間以上経過してから行うのが良いといわれています。これより早く検査するとウイルス量が少なく、感染しているのに結果が陰性となってしまうことがあります。

反対に発症から時間がたつてしまえば、ウイルス量が減少し始めると、陰性という結果になることがあります。このように、検体中のウイルス量により感染しているのに結果が陰性(偽陰性)になることがあります。

現在流行している新型コロナウイルスのPCR検査でも、偽陽性や偽陰性は起こります。「感度」…疾患がある人での検査結果陽性(真陽性)の割合、「特異度」…疾患がない人での検査結果陰性(真陰性)の割合があります。

今回は引き続き検査の精度について説明していきます。

【表1】感度と特異度

		疾患	
		あり	なし
検査	陽性	真陽性	偽陽性
	陰性	偽陰性	真陰性

【感度】  
真陽性の人数  
疾患ありの人数

【特異度】  
真陰性の人数  
疾患なしの人数

ある一定量以上でなければ陽性と判定されません。インフルエンザに感染してからウイルスが増殖するまでには、検査にかかる時間がかなり、検査試薬により異なります。検査は症状が出てから6時間以上経過してから行うのが良いといわれています。これより早く検査するとウイルス量が少なく、感染しているのに結果が陰性となってしまうことがあります。

反対に発症から時間がたつてしまえば、ウイルス量が減少し始めると、陰性という結果になることがあります。このように、検体中のウイルス量により感染しているのに結果が陰性(偽陰性)になることがあります。

現在流行している新型コロナウイルスのPCR検査でも、偽陽性や偽陰性は起こります。「感度」…疾患がある人での検査結果陽性(真陽性)の割合、「特異度」…疾患がない人での検査結果陰性(真陰性)の割合があります。

今回は引き続き検査の精度について説明していきます。

高橋桃子  
臨床検査技師  
高橋桃子  
高橋桃子  
高橋桃子